埼玉育ちのグローバル人

インドで仕事をしてみたら
～私の常識は私だけのあたりまえだった～
第 3 回「七転八倒で気づいたこと」

埼玉県マスコット
「コバトン」

吉村　比佐子さん

周りの誰かは助けてくれると信じられた

自分で何とかしなければと肩に力が入っていた私、こんなことを言ったら迷惑を掛けてしまうのではと思い、相談したり、頼ったりすることが苦手だった私です。日本では、「人に迷惑をかけないようにしなさい」と親から言われてきた方もいらっしゃるのではないでしょうか、かくいう私もそうです。どこかで聞いたことがある方もいらっしゃるかもしれませんが、インドの同僚は、「あなたは人に迷惑をかけて生きているのだから、人のことも許してあげなさい。助けてあげなさい。」って言われて育ったと話してくれました。今でもできることなら自分の力で何とかしたいとは思ってはいますが、頼れば誰かが助けてくれるという経験をたくさんできたことで、頼るのもアリかなと思えるようになりました。

しない理由を探さない

日本には「段取り八分の仕事二分」や「段取り力」という言葉があります。今まで仕事に取り掛かる前に、まずはしっかりと計画を立て、入念に準備してから実行に移しなさいと言われてきました。いかに失敗のリスクを減らすかを重視しているように思えます。

一方、インドでは計画、準備通りにまず事は進みません。そのためか、計画もそこそこに面白いアイデアだと思えばどんどん実行に移します。上手くいかなければその時に考えればいいし、やらないよりやった方がいいと考えがあるように感じます。できない、やらない理由を探すのではなく、とりあえずやってみる。私とは全く違う仕事の仕方をしていました。失敗したら…って心配になりますよね。お互い様なのか、周りは失敗を責めることもしませんし、本人たちも失敗をひどく悔やむこともあまりないように感じました。思い付きも完璧を求められないので、恐れずにいろんなことに挑戦するカルチャーの経験ができました。

そして、何かにチャレンジする時に、まだスキルや知識不足だからと出来ない理由を探さずに、スモールスタートでやってみようという発想を手に入れました。

自己主張を恐れない

「出る杭は打たれる」という言葉が日本にはあります。集団の中で孤立するのは怖いので、よほ

どのことがない限り、相手に合わせてしまいがちな私です。海外一人旅というとすごいねと言われることもあるけれど、自分のしたいことができなくてモヤモヤするくらいなら、一人で行く方が気兼ねなく、自由にできるから好きなのです。
本題に戻りますが、インド人の上司と出張に行った時に、話好きのはずなのに、話しかけられているのに全く会話が弾んでいないことがありました。不思議に思って理由を聞くと、グジャラーティー（モディ首相の出身地の言葉）だから全く分からないと言っていました。そう、インド人同士でも言葉が通じないことがあるのです。日本の方言の比ではありません。違うことが前提なので、分かり合うために何でも話します。
例えば、ダル（豆）カレーの固さについて。とにかく自分の考えを伝える情熱は半端ではありません。相手に合わせるばかりで、自己主張しないことは相互理解や歩み寄りを拒絶していることに等しくて、自己主張はお互いを理解するためには必要であると考えるようになりました。

自分を信じる

親が自分の子供について話す時に謙遜する場面に出会うことがあります。私が出会ったインド人は全く反対で、一言でいうと親バカです。いかに自分の子が素晴らしいかを語り、子供は褒められて育ちます。そのため、自己肯定感が強く、自分の言動に自信があり、何事も自分ならできると考えているよう人に多く出会いました。ついつい自分なんか…と謙遜しがちですが、言霊の力を信じるのでそんな言葉を使うのは止めました。
自分を大切にできるのはまずは自分です。自分の可能性を信じる強さを手に入れました。
インドでの就労中は絶えず勃発する事件に対処するのに必死で、成長実感を得ることができませんでした。ですが、インドで仕事を終え、出国ゲートでパスポートにスタンプを押してもらった時に、振り返ると自分の後ろに長い道が続いていて、気づけば随分と進んだなという気持ちがあふれてきたのです。これには自分でも驚きました。ハゲができるくらい悩んだけど、乗り越えられた。その経験は私にとっての大きな自信となり、自分の秘めた力を信じることができました。

最後に

このたびインドで働いて感じたことをご紹介する機会をいただけたことに感謝しています。帰国から 2 年と少し経ち、あの日々を振り返ることでまた新たな発見がありました。とにかくインドが好き‼　今まで常識と思っていたことが、私だけの当たり前であることを知ることができたのは、インドのみんなのおかげです。ハグしてお礼を言いたいよ～！同じ時に同じ場所に行っても異なる印象を持つはず。百聞は一見に如かずとはよく言ったものです。皆さま自身が経験され、それを聞かせていただける機会を楽しみにしています。
たくさんの出会いがあなたを待っています。
最後まで読んでいただき、本当にありがとうございました。